

職員の和を図り 医療情報も多く

「じんせい」50号記念座談会

昭和62年1月、創刊号をやつしの思ひで発行した院内報「じんせい」が2月で無事50号を迎えました。そこで関係者に集まつてもらい、内容の印象や感想、思い出に残る記事について座談会を開きました。今後の方向づけや、こんな院内報であつてほしいという提言もありました。以下座談会の紙上録音です。

全体的な感想を

司会（浜田）院内報は昭和54年4月に前院長の細木高行先生が職員のお互いの理解を深め、また病院人と

しての店舗を原して始め、たもので、当時は「飛躍」として年2回発行されていましたが、62年1月「じんせい」と名前も変え毎月1回発行を続けてあります。

勿論情報化時代の「ヒト」
二三イペーパーですのじ、
院内のそれぞれの持ち場が
どのように動いているか。
殊に細木病院のような大所
帯になると案外知つてゐる
けれど、どういう病院な
か外部の者にも分かるよう
な気がして大変嬉しく思
ります。

御傳勸善書卷之四

院内報の意義については、院長が考えられていくことが紙面に脈々と伝わってくると思うことが大事だと思います。職場で一緒に働く人については上司だ

針に従つて四分も一生懸命
やるといふからどういふ気持
わざもなるでしよう。最近
に生徒のハーバードマークと
バッジや出来たようでもある
が、バッジをつけないじたば
よつて細木病院の職員である
といふ誇りと自覚を持つて
いいれるのではないかといふ
感じがします。

お読みになつておられると思ひますが、そういう点も含めてお願ひします。

田村 2年前に赴任して「じんせい」を見ました。阿波銀行にも行内報があり毎月発行でしたが、「コスト」の関係で4年ほど前から2ヵ月に1回に切り替え、年6回発行です。これは「コスト」の問題もさることながら、手間とスタッフの問題だと思います。

ようやく、知らない事が多いためと思う。色々の職場を取り上げたり、あるいは看護学生がどのようにやられているか、これは非常に「二一」という事が一般の職員にちんな考え方でやっている、分かるわけです。病院の方
～ 座談会出席者（発言順・敬称略）～
田村 秀敏
松岡 正一
阿波銀行高知支店長
高新区社会福祉事業団理事長

ねらい通りの内容に
さん 松岡



われよりいたいと思つてゐる
して、今日は座談会を開いた
ようなわけぢやないか。
おむ「じんせい」を見た
の感想を承りたいと思つて
すが、この道のベテランで
長年、新聞編集にも携つて
て来られた松岡さんから、
プロの目を通して見た「じ
んせい」を語つて頂きたい
と思ひます。

いては色々な企画を立てたり紙面がカラーでもあり読みやすいが、一部色の使い方で赤とグリーンは見づらいと思いました。昨年の新年号は多色カラーですぱりしかつた。

一貫していくことは細い通りの立派なものが作りされているのではないかと思われています。

京へ異動で赴任した時ですが、企業間の中での「うう」という企業内の情報誌は殆ど見た経験がありません。阿波銀行の場合は内容は2方面に1回でかなり充実していると思うのですが、「じんせい」は内容的にもそれに匹敵するものがあると感いました。

一貫していえることは銀行の立派なものが作られているのではないかとの感想です。司会 次は「生命の取扱い」について、田村さんにお願いします。田村さんは高知以外のあたりを回られて、各県の金融関係の行内報を

「い」は内省的にもそれに匹敵するものがあると思います。

「じんせい」50号

記念座談会

司会 御荘さんは細木病院の元総長で、その頃は院内報はなかつたと思いま

すが、古巣が発行している院内報を外から覗になつた感想を…。

学院行事を事前に

御荘 私は「飛鷹」の時



…。それと新しい先生の紹介。古い先生の方のことは知つていても、新しい先生のことは知らないので、詳しく述べる。載せてほしいと思いま

す。先日は土佐准看護学院の戴帽式が行われた二コース

いしまわ。他の分はくだけ過ぎた先生のことは知らない。全体的に言えることは、單色カラーで毎回色を変えているが、赤系統の印刷ばかり見にくい。またグレー系統で薄い色の分もいくつあるが、目がかすんで見る方には、見にくいのではないかと思います。浮き上がりのようなカラーの組み合

岡田 「じんせい」が出来たときに、みんな内輪話もやめさせてもらつてます。

闘病生活のことなど改めて知りました。病院の中にいて他の部署の細かいことは知らないことが多く、「じんせい」は意義があると思います。しかし目

んとうのは病院の職種の中では最も人數の多い部門です。それで、細木病院の多数の考え方が出でないと思つて外部の人に紹介しないともいひます。

矢野 「じんせい」が出来たときに、みんな内輪話もやめさせてもらつてます。

司会 伊野部さんは細木病院と兄弟病院の三愛病院の婦長さんです。三愛病院の立場から意見がありましたが、今度は視点を変えて発行から4年の間に「じんせい」に載った色々な事、楽しい出来事と悲しい話題、そして職場でやりやが家のスターに登場された方など皆さんの

心に残る記事や写真を紹介したい。患者さんの心にもぜひお届けしたいと思います。

司会 皆さんから全体的な印象の中にも細かい点にも触れられた意見をお聞きました。

心に残る記事や写真

ありがたい外来日程 御荘さん ある程度の格調必要 岡田さん

が載っていました。私は前

の理事長先生と一緒に学院を作った経緯があります

し、初めの定員15人がいまや70人になっています。行事の日程を事前に載せてもらつたらと思います。

ただ色の赤は読みづらいですね。字はやはり小さいので、出来ればもう少し大きめにしてほしいと思います。

御荘 うちの婦長さんでありますね。私がおつた頃はまだ若かったのに婦長さんに寄りの患者さんが多いで、その声をそのまま代弁させて頂きます。

いですね。

この程度の硬さ・軟らかさが適当ではないかと思います。

他の病院の院内報を見ると、くだけ過ぎていて何となく軽い印象を受けます。

ある程度の常識を踏まえて、ある程度の格調を持つものであつた方がいいんじゃないかな」と思いました。

御荘 うちは婦長さん

の記事内容については、私はこの程度の硬さ・軟らかさが適当ではないかと思います。

他の病院の院内報を見ると、くだけ過ぎていて何となく軽い印象を受けます。

ある程度の常識を踏まえて、ある程度の格調を持つものであつた方がいいんじゃないかな」と思いました。

御荘 うちは婦長さん

の記事内容では病院からの一方的なものが多いが、今後は患者さんの闘病生活の

「じんせい」によって細木病院の流れが分かるので、ずっと続けてほしい。

こんなケースがありまし

た。O-Tを撮りに行く際に

細木病院を高知医大のよう

に思つて、おじて患者さん

が行くのを嫌がつてしま

たが、「じんせい」を見て初

めて細木病院が和のある病

院であることを知つて、O-T

を受けるようになりました。患者さんの心にもせひ繋けて欲しいと思います。

心に残る記事や写真

の記事内容では、字が小さい為で

しょうか。患者さんたちも

ます。他の病院の院内報を見ると、くだけ過ぎていて何となく軽い印象を受けます。

御荘 うちは婦長さん

の記事内容では、字が大きい

ので、読むのが楽だ

と思います。

御荘 うちは婦長さん

の記事内容では、字が大きい

ので、読むのが楽だ

思います。



仁生会本部で開かれた「じんせい」50号記念号の座談会

御社 題字ですが、高知

せい」だといふ。通した色を選んだらどうでしょうか。統一のイメージがいいですね。読みやすいきれいな企業カラーというのができるばいいのではないかと思いま



田村 色を見たら「じんせい」

年新年号からは浜内科部長に変わっています。皆さんの字を順次表紙に残していくといふ意味もあるわけです。今

年新年号からは浜内科部長に変わっています。皆さんの字を順次表紙に残していくといふ意味もあるわけです。今

統一カラーフォーマットの記事を 田村さん



矢野 わが家のスターは

「じんせい」50号
記念座談会

庄 脳田栓など印頭の予防についてシーラー的に載せたら患者さんは喜ぶんじゃ

ないかと思います。先生方の協力がなければいけないと思いますが、具体的なことについては実際には患者さんを診なければいけませんが、そこで質問を出して頂き、お答えをするという方法はどうかという事でした。が、具体的なことについては実際には患者さんを診なければいけませんが、こういった事で決になつた経緯があります。外科の北村先生が乳腺のことについて書かれていますが、こういふふうに全般的なことについては問題はないと思いま

す。

松岡 やはり載せた方がいいと思いますが…。疾患について例えば糖尿病とか高血

「短すぎた院長看護」
司会 記事の中で心を打たれなもの、私は内田婦長さん（細木病院1病棟）が書いていた「短すぎた院長看護」（つづり隨筆）という記事は、いまだに心に残っています。

時事エッセーに敬意

田村 院長の「時事エッセー」を一番先に読んでいます。素晴らしい内容でいつも感心しています。どこで考えて毎回続けて載せられるか、その努力に敬意を表します。

総婦長を送る特集号
松岡 繰り込みを持見して、26年間ご苦労様でしたという総婦長の特集号がありました。26年勤める

ということは永年勤続の最長もので、細木病院は長く勤めた人を大事にいる病院だと非常に感心しました。それから研修報告なんかも関心があつて読ましきもいました。職場めぐり、うちの婦長さんは面白い企画だと思います。ただわが家のスターはこれほど毎回取り上げる必要があるの

か、疑問に思いました。

司会 ページ数とか分量は適切でしょうか。

松岡 あんまり厚くても薄くともね。分量としては丁度だと思います。

司会 色は皆さんの「批評」があるようで、赤色やグリーンはよろしくないといつです。編集委員会でも普通の白に黒の印刷でいいのではないかという意見も出て、2回ほど普通の印刷で発行したことがあり

新聞には昔から独特の題字があるよう、「じんせい」の題字も決まったものがいいのです…。

司会 記事の内容、連載企画について。

先生や職員の紹介

庄 脳田栓など印頭の予防についてシーラー的に載せたら患者さんは喜ぶんじゃ

ないかと思います。先生方の協力がなければいけないと思いますが、具体的なことについては実際には患者さんを診なければいけませんが、そこで質問を出して頂き、お答えをするという方法はどうかという事でした。が、具体的なことについては実際には患者さんを診なければいけませんが、こういった事で決になつた経緯があります。外科の北村先生が乳腺のことについて書かれていますが、こういふふうに全般的なことについては問題はないと思いま

す。

松岡 やはり載せた方がいいと思いますが…。疾患について例えは糖尿病とか高血

初、私の田が書いたもので順番に書いて残す

細木院長 題字は一番最初に書いたもので、その後は半年ごとに

年配の方から順番に書いて順こうという趣旨で変わっています。交代で書くこと

庄 脳田栓など印頭の予防についてシーラー的に載せたら患者さんは喜ぶんじゃ

ないかと思います。先生方の協力がなければいけないと思いますが、具体的なことについては実際には患者さんを診なければいけませんが、そこで質問を出して頂き、お答えをするという方法はどうかという事でした。が、具体的なことについては実際には患者さんを診なければいけませんが、こういった事で決になつた経緯があります。外科の北村先生が乳腺のことについて書かれていますが、こういふふうに全般的なことについては問題はないと思いま

す。

松岡 やはり載せた方がいいと思いますが…。疾患について例えは糖尿病とか高血

「しんせい」50号に寄せて

毎号綴つて温めています

細木病院 6 病棟



裏正 茂子

「じんせい」創刊50号お届け
とうござります。思えば昭和54年発刊の院内報飛鷺に、今は亡き前院長先生の心温まるご挨拶が載つてあり、その人柄が偲ばれます。昭和62年から題字も「じんせい」と改まり、毎月発行されています。内容は細
仁生会顧問弁護士
「仁」を願つと
寿男 弘徳

東洋思想は「ふたり」「親子、夫婦、兄弟（姉妹）を想像し、それが慈しみお母子の情愛、愛（いと）」ではなく、夫婦の絆の愛、弟妹は兄を慕い、兄は弟妹を庇う兄弟の愛、時には愛の恩を「アイ」として同一観念で把握して、哀れさえ含んだ、共通の理念として考えだされたものが「アイ」である。

ひの口に聞えど「しふしふしみ」「したしみ」等「愛」のすべてをひらくために「アイ」と書かれるようになった。

じんせい創刊50号あけ出
とうございます。思えば昭
和54年発刊の院内報飛鷂
に、今は亡き前院長先生の
心温まる挨拶が載つてあり、
その人柄が偲ばれます。
昭和62年から題字も「じん
せい」と改まり、毎年発
行されています。内容は細
「仁」を願つと

東洋思想は「ふたり」「親子、夫婦、兄弟（姉妹）を想像し、それが慈しみお母子の情愛、愛（いと）」ではなく、夫婦の絆の愛、弟妹は兄を慕い、兄は弟妹を庇う兄弟の愛、時には愛の恩を「アイ」として同一観念で把握して、哀れさえ含んだ、共通の理念として考えだされたものが「アイ」である。

ひの口に聞えど「しふしふしみ」「したしみ」等「愛」のすべてをひらくために「アイ」と呼ばれるようになった。

50年おめでとうございました。す。5病棟のスタッフの皆さんにおたずねした事を書いてみます。

「じんせい」を感じる愛の事も良く分かり、特に人の動きは一番知りたい記事です。当初は「じんせい」が手元に届くのが待ち遠しく、そして一部は持ち帰ら保存したものでした。

しかし最近では待ち遠しいということはありません

細木病院5病棟主任

一人から排除されるべき邪魔者でしかない。
それだから、一方では「勝手にしゃがれ」と歌手

しかしまた思い出したな
うに読み返します。それは
記憶をよみ返せていると
の事です。今でも持ち帰つ
てるのは30代の熟女のよ
うです。

これからの「じんせい」
に望むことについて一今ま
で同様に身近なものであつ
てもらいたい。そして患者
さんからも、じんせい投稿
して頂き、私の文章も載つ
ているのではと、胸をとき
めかせて読んで頂きたいと

が、あら、「じんせい」が出たの…と言つてまづ1ページを読み、ちらちらめぐつて人の動きを見て棚にします。数日後の夜勤で取り出し、ボソボソ読みます。全ページ読み終わると棚に戻します。

文字を見るたび、美智子さんの呼び声が聞こえてきそうな気がする。

「じんせい」発刊50周年
からお慶び申し上げます。
長い年月の流れの中にあつ
て、様々な出来事に遭遇し
ながら、その時々の記憶や
感動も流れがちになる時、
なにげなくめぐった「じん
せい」の紙面に懐かしさや
歳月の流れの早さを感じて
あります。

三愛病院1病棟婦長
山中 景子

活字をもう少し大きく

回楽しく読ませていただき
ましたが、もう50号になる
とは…。本当に毎日の早さ
を感じます。

私も土佐准看護学院入学
と同時に、細木病院へ就職
しましたが、10年目を迎え
ようとしています。私が准
科ナーナー「お嬢さん」
なんていうのは
うか。これからどう
のうかの発展をお

A black and white portrait of a young woman with short dark hair, wearing a dark top. She is looking slightly to her left. The photo is framed by a thin black border.

か
それは確かに職員だけに
しか配られていないからだと思います。
「じんせい」
のようになります。
とにかく編集され
る方がいい、院内外の声が
一冊にまとまり、それが患者さん
の元にも届くのです
から、自分に足りない

「お嬢さん募集」

「」のコーナーを

「じんせい」も年を追う毎に内容が豊かになり、職員や患者さんも発行を心待ちにされています。「じんせい」がより多くの方に愛読される為了に、活字はもう少し大きくなった方が良いと感じるのは、私も年をとうたせいでしようか。

編集委員の皆様には、今後もまことに活躍をお祈り申し上げ、寄稿と致しま。

頭の痛い「ネタ」や読者のこと

細木病院理学療法室長

A black and white portrait photograph of Toshiyuki Okuda, a man with dark hair, wearing a suit and tie.

沖 広剛

細木病院にお世話をねる
とほぼ同時に編集委員をお
せつかり、以来編集委員会の末席を汚している。ということは、「じんせい」の一般的な読者という立場を経験したことがないということである。
いさむかバランスを欠いた立場で「じんせい」について述べてみても、内容もバランスを欠いたものになるに違いない。しかし書かれていうからには書かなければ男が腐る…と勝手に意気がつたりする悪い癖があるとしても出していく。

時々「じんせい」の記事が
患者さん達の会話の「やつ
になるとも思われる。
また最近気がついたこと
だが、OBの方々も「じん
せい」から病院の動向を知
ることができるそうだ。
「じんせい」は一応院内
報だが、これだけ色々な立
場の方に読まれているとな
ると、漫然と企画・編集をす
る訳にはいかない。編集委員
の役もあと少しだが、ますます頭
の痛くなる今日この頃である。というのは
真っ赤な嘘で、小生の相変わらずの極楽蟠筋ぶりに、
編集長はますます頭の痛くなり、
なる今日この頃に違いない。

「や読者のこと

—次の発刊待たれる院内報に

細木病院副院長

新しい「じんせい」を見聞する度に、ぎつしり詰あつた字を見て、字を書く事の嫌いな私には、編集される日々の苦労が思はれます。それで私は「じんせい」とも書いて、「じんせい」とも書いて、記事は大分甘くなつて、いるような気も致ります。職員が次の発刊を期待するような院内報に近づけるのが、理想なのでしょうが、難しい面もあると聞いています。とにかく編集者皆さんのご努力には感謝しております。

忘ひます。毎回同じ内容ではなく、少しずつシリーズ的に変えていったら、もっと楽しいと思います。

例えば病気についての注意事項、人生論、恐ろしい体験、世にも不思議な出来事などを載せたらいかがで

マンガの上手な方は、コママンガを連載して顶いたり、楽しく愉快な出来事も聞きたいと思います。今後も情報交換の場として長く「しんせい」が続きますようお祈り致します。

歴史重ねた両病院の思い出を

三愛病院検査室主任

A black and white portrait of Michiko Miyashita, a woman with dark hair pulled back, wearing a light-colored blouse. The photo is framed by a thin black border.

昭和62年1月、故細木善子理事の題字「じんせい」が入り、63年から青山副院長、細木前事務長、山下

原副院長、多田整形外科病院長と6ヵ月毎に、題字の筆者が代わっていますが、気がついた人は意外と少ないのではないでしょうか。私は「じんせい」を樂むに待ち、欠かさず読む

三愛の二
三愛病院医事課長

二愛病院も創立15年を迎えて、細木・三愛ともに歴史を重ねています。現在勤務している方の中には、両病院の歴史を知らない人も多いと思います。私もその一

回顧していると一進歩がない」とか「いいよい年をとつたがえ」などと言われていますが、温故知新を期待するのは私だけでしようか。「じんせい」が益々充実・発展する事を期待してあります。

私が「じんせい」の記述を読むのは、週間外来担当医の表とニユーフェイスの紹介、人の動きまたはアボット的なものです。しかし人の動きや病院の行事等を知ることは、細木・三愛両病院の親睦を深める意味で大切な事と思います。

特に新採用職員の好意的な言葉は欠かさず見ますし、具体的な抱負が述べてあるコメントを拝見すると、頗もし感ります。

昨年の二愛病院健康展の時の初の屋台では、細木病院の行事内容を参考にさせてもらいましたが、どちらも盛況で、「じんせい紙上で成果が紹介されると、やはり実行委員の一人として嬉しかったですね。

今後も二愛病院の一貫性が少しでも多く載つて、細木病院との交流がより深まることがあります。

人です。

人です。

「じんせい」50号に寄せて

民間病院の息吹きが即伝わる

県立安芸病院院長



宇都宮俊裕

昔はお正月の年始回りは、若手の医者が数人ずつグループを作つて、医師会の先輩の家に押し掛けたものである。その中には親父同士が必ず居たように記憶している。

早いもので、この正月で19年目の県立病院勤務を迎えた。親父も九反田で頑張つているようだ。細木院長とは研究室は異なつたが、同じ頃に岡山大学で過ごした仲であるが、まだ親父同士の仲がよく、いい意味のライバルとしている。そのような環境に育つた私が、唯一触れる民間病院の息吹き報が「じんせい」である。職員の方々の和と

病院の発展がリアルタイムに伝わってきて、またそれらを少なからず私の病院運営の参考にさせて顶いています。

細木病院検査室



野村 葉子

潤滑油と心の薬の役割を

さて今日は元日、久しぶりに細木先生のお宅にご年始に行くか」とタクシーを呼ぶ。「細木院長宅へ行つ手曰く「あそこは先生方がいいですね。今後益々の発展を期待致します。(1991.1.1)



江渕 光代

「じんせい」創刊50号を迎え、おめでとうございま

す。私は「じんせい」は7号から読ませていただいています。人は第一印象が

「飛鷹」創刊号の高行理

院内報「飛鷹」発刊に際して挨拶申し上げます。地域医療機関の一環として施設の充実を図るとともに、職員各位の研さんと一層のご協力により、信頼される病院になるよう邁進したいと存じます。本誌は病院と職員(家族を含む)とを結び、相互理解と人間関係を深め、よりよい病院人としての成長に意義あるものと信じます。本誌が益々発展致すよう、多数の投稿をお願い致します。

まで以上に果たしていただき、100号、200号へと飛躍されます。

「より楽しくて身近な情報

大切」という言葉を口にしますが、私にとっての第一印象は、院内報の存在を知った感動と「カラフルな色」でした。

細木病院栄養課

江渕 光代

また職員全員に配られる

という事で、もつたないないと思う反面、改めて細木病院の一員になつたという重みを感じました。今後も今まで以上に、楽しくて身近に感じる院内報になつて欲しいですね。

「じんせい」50号の足どり

◇昭和54年4月=院内報「飛鷹」第1号発行(細木高行理事長が発刊あいさつ=要旨は別項)年2回発行で、昭和61年3月第13号で「じんせい」に引き継ぐ。

◇62年1月=「じんせい」第1号発刊。題名は医療法人仁生会から採用し、題字は細木美智子理事が筆をふるう。リレー隨筆・診療科ガイド・白い窓の連載のほか細木理事長の年頭あいさつ、学会・研修会レポートや保育所紹介など。

◇62年2月=ニューフェイス欄新設。

◇62年7月=7月号は「よい人間関係をつくるには」の講演特集号として、住友生命高知支社長の講演内容を6ページに収容。

◇62年8月=新連載・職場めぐり登場。

◇62年9月=医療相談室が担当する「ございますか」スタート。

◇62年12月=62年の院内10大ニュースを発表、トップは細木靖弘・三愛病院院長の就任。

◇63年1月=「じんせい」発刊1周年を記念して多色刷り紙面に。1面に全国優勝の鯉「ハナコ」写真。題字は青山副院長に交代。

◇63年4月=土佐准看護学院が開院25周年を迎え、記念式典。

◇63年6月=わが家のペット登場。

◇63年7月=題字・細木清事務長に。

◇63年8月=理事長の時事工ツセー開始。

◇63年10月=新企画・うちの婦長さん。

◇平成元年1月=新年号はカラー印刷。63年の10大ニュース1位は細木美智子理事の急逝。題字は山下ムツ子総婦長に変わる。

◇元年2月=週間外来担当医のスペースを倍にして分かりやすく。

◇元年6月=院内報の新編集委員15人を選任。月に1回会合を開くことに。

◇元年7月=題字・弘瀬嘉三愛総婦長に。

◇元年9月=山下ムツ子総婦長退職に寄せての特集号発行。看護部門を中心に投稿を募り、12ページにまとめる。

◇元年10月=わが家のスター始まる。

◇元年12月=64年の10大ニュースのトップは基準看護特2類に。

◇2年1月=新年号はXmasの催しをカラーで。年男・年女に午年の抱負を語つてもう。題字が芦原作治副院長に。

◇2年3月=「接遇セミナーを受講して」の座談会を開き、3ページの特集に。

◇2年12月=90年の院内10大ニュース1位は細木病院精神科の基準看護特1類取得。

◇3年1月=新年号のカラー写真は万里の長城を掲載。題字が浜駒内科部長に交代。

◇3年2月=発刊50号を迎える、12ページの特集号(座談会や関係者の寄稿文)を発行。